

観 光

本村の観光資源は、雄大な赤城高原の広大な農地と自然環境、それらを望む景観、そして、大自然がもたらした産物のりんご・いちご・さくらんぼ・ブルーベリー狩りなどの観光農園や、消費者に新鮮な野菜を届ける農産物直売所「旬菜館」、スポーツと滞在型施設「昭和の森」（ゴルフ場・山荘）のほか、赤城高原の別荘地、横浜市少年自然の家「赤城林間学園」、日帰り温泉施設「昭和の湯」などがあり、総合運動公園や千年の森スポーツセンター（サッカー場）では、スポーツを通じて多くの人々が交流し健康増進を図っています。

また、平成23年7月にオープンした、「道の駅 あぐりーむ昭和」は、農産物直売所「旬菜館」をはじめ、昭和村の食材を使用したレストランや物産館、足湯、無料休憩所、観光案内所、トイレなどを完備した施設となっており、連日、多くのお客様で賑わっています。

昭和村を訪れた平成28年度の観光客数は、道の駅あぐりーむ昭和に約398,000人、昭和の森ゴルフ場・山荘に約13,000人、横浜市少年自然の家「赤城林間学園」には約35,000人、昭和の湯に約98,000人、千年の森に約21,000人の来場があり、合計では約565,000人の人々が訪れています。

また、平成14年度からは、誰にでも使いやすい安全で快適な観光トイレを、望郷ラインや村道永井中野線沿いに3か所を整備し、併せて観光案内看板も設置しました。また、平成26年度からは望郷ライン及び大規模農道沿いや結婚の森の良好な景観ポイントにビューポイントを整備しました。

村の祭り・イベントとして、春には「昭和の日記念イベント」と「やさい王国昭和村河岸段丘ハーフマラソン」、秋には、「昭和の秋まつり」、冬には「ウインターフェスティバル」などが行われ、年々、来場者が増えています。そして今後は、景気の長期低迷による低価格志向などの傾向の中、活発で人数の多い団塊世代が退職期を迎え、団塊ジュニア世代が子育て期を迎えており、体験・学習・交流・滞在・リピート型観光の充実などが求められています。